高校阿部野新聞

発行所
大阪市阿倍野区
阪南町中一丁目
大阪府立阿部野高等学校
新聞部
発行兼編集者
清水正明
印刷所
大阪市福島区上福島
北三丁目六六
大信印刷株式会社

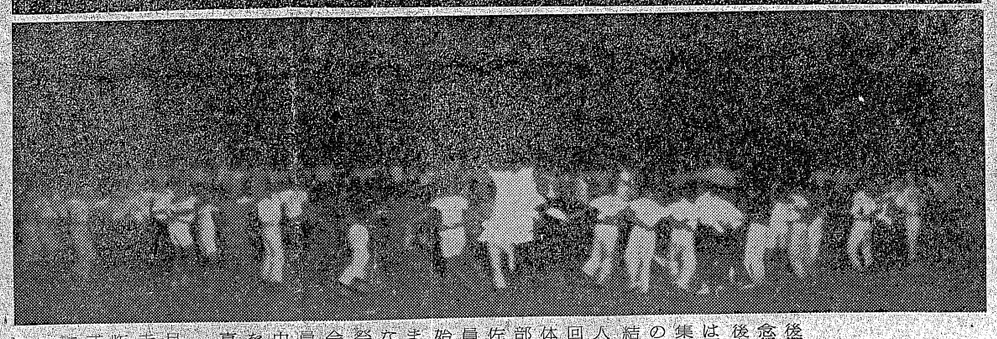
部告

本紙五円特別販賣

第四回記念祭を迎え新聞部では記念祭特別号として本紙二十七号を発行、特に御父兄、同窓生一般の方には特価五円で販売致します。何卒御購読下さい。なお在校生は慣例の如く無料配布

新聞部

華やかに記念祭開幕



きょう盛大に体育大會

文化祭は十七、十八日に

本校恒例の最大行事であり、全校教職員生徒及び各関係者待望の第四回記念祭は、本校の誇る伝統と絢爛たる内容を包含して、自治会主催、PTA後援により、若人の理想と情熱の結晶として、きょう十月十四日美と健康の祭典たる体育大会を皮切りに堂々と開幕する。またつづく文化祭は来る十七、十八日の両日本校文化活動の最高峯として講堂に於ける演劇・音楽会を中心に会校舎に展覧会を開催して多彩なるプログラムを繰り展げる。

（写真は昨年のファイヤー・ストーム）

後期自治会の最大行事である、記念祭の準備は、去る九月二十二日にして後期自治会が成立するや、自治会あるいは同二十五日第一回緊急議会を召集して部会の結成を行い、折から熱と意気と技量でカバーするとの三年生修学旅行のために委員会結成が遅れたが、熱行委員会では人選等に努力、十月三日には第一回定例議会を開催して、文化祭、体育祭両準備委員会を結成し、矢部副会長が文化祭準備委員長に、佐藤三年男子代表が体育祭準備委員長に決定してそれぞれ活動を開始した。

また同五日には両委員会が中心となって、文化祭進行委員会、体育祭進行委員会及びテーチ作製委員会、ファイヤー・ストーム準備委員会、プロムナード準備委員会の成立を見、鋭迫した予算の中にも、最少の費用で最高の祭典をとのスローガンの下、それぞれ真剣に活動を開始した。

きょう開く体育大会は、去る四月優勝カップが盗難にあってから未だその復活が出来ていないため、昨年度より始められた学年対抗形式は中止され、各学年を二分し各訂六チームを赤・白・黄・緑・青・黒の色別対抗得点制により実施する。未だ運動場の拡張が行われ、記念祭の一貫行事のつとして一日、同委員会が印刷配布した歌詩は急速に会合をもった末、同問題に対して深く反省し責任をとって同準備委が準備した今回のファイヤー・ストームを中止し準備委員、学校として発足したが、なき本校の誇るファイヤー・ストームは、本年度も十四日体育大会の歌、生徒歌、「カンショ節」及び「カンショ節」歌詩が印刷されており、その歌詩の内容に対して去る九日学校当局に於いて論議され、翌十日には準備委員会側より出席し、その歌詩の内容は出来得る限り回収し校長先生及び先生方に謝罪を行い参加者十五日は現に至らなかったのはじめていた。しかし、会あたりからもその作

ファイヤー・ストーム中止？

歌詩内容で準備委解散

記念祭の一貫行事のつとして一日、同委員会が印刷配布した歌詩は急速に会合をもった末、同問題に対して深く反省し責任をとって同準備委が準備した今回のファイヤー・ストームを中止し準備委員、学校として発足したが、なき本校の誇るファイヤー・ストームは、本年度も十四日体育大会の歌、生徒歌、「カンショ節」及び「カンショ節」歌詩が印刷されており、その歌詩の内容に対して去る九日学校当局に於いて論議され、翌十日には準備委員会側より出席し、その歌詩の内容は出来得る限り回収し校長先生及び先生方に謝罪を行い参加者十五日は現に至らなかったのはじめていた。しかし、会あたりからもその作

会校舎内にくり展げる展覧会とでその会場を天下に公開するが講堂に於けるクラブ発表では演劇部が「寒鴨」の発表を決定運日午後八時迄猛練習を開始している、又ESSが「父帰る」を英語劇として上演する他、洋舞踊、スウィング、ハーモニカ、

記念祭歌募集せず

一部生徒に非難の聲

自治会では、自治会成立より記念祭の開催までの期間が非常に急迫していたことと、三年生の修学旅行による連絡の不徹底を理由に昨年より行われて来た、記念祭歌募集制度による第四回記念祭歌の募集を中止し模様で、公式発表はないが、祭典に於いては記念祭歌の代りに最近生徒の手によって作詩作曲を行い完成した生徒歌及び応援歌によって代用するものと思われる。また生徒の一部に於いては記念祭歌の募集中止はいかに期日が迫っていても、伝統に寄りをつけるものとして非難の声が出ている。

期待される三年生の活躍

總選擧眞劍裡に終了

昭和二十六年後期自治会総選挙は会計問題で校内は波瀾の中に去る十九日立会演説並びに投票を行った結果、会長米尾成人君、副会長矢部信義君、書記上田厳君、会計北巷良子さんと決定した。学年代表は二十日各学年毎に別れ立会演説を行い同日決定をみるに至り続いて各クラス議員選出も同日行うと言うようなスピードの中に幕を閉じた。翌二十一日講堂に於いて新旧役員交替式並びに就任式が挙行された。この結果、前期に於ける三年生の自治熱の低調に対する批判が効を奏し今後の三年生役員の活躍が期待されている。

（写真は上より　米尾、矢部、上田、北巷の各役員）

九月十日第十六回緊急議会にて選挙管理委員会が結成され十三日選挙管理規定の発表並びに受付が開始された。書記候補上田巌君をトップに〆切りの十七日には会長候補米尾成人君副会長候補矢部信義君の候補者が出て会計が依然となく管理委員会は〆切期日を翌十八日に延期する事を発表したが十七日漸く会計に北巷良子さんが立候補し翌十八日会長候補谷村和男君副会長候補阿部三郎君を最後と挙管理委員会は〆切時を以って〆切られた。

九月十九日午前中会員を講堂に集め調整委員会の中間報告を後にひかえ米尾会長候補をはじめに谷村会長候補、矢部副会長候補、阿部副会長候補、上田書記候補、北巷会計候補の立会演説及び調整委員会の中間報告が行われた。同日漸く会計に北巷良子さんが立候補し翌十八日会長候補谷村和男君副会長候補阿部三郎君を最後として十八日午後八時を以って〆切られた。

九月十九日午前中会員を講堂に集め調整委員会の中間報告を後にひかえ米尾会長候補をはじめに谷村会長候補、矢部副会長候補、阿部副会長候補、上田書記候補、北巷会計候補の立会演説及び調整委員会の中間報告が行われた。同日漸く会計に北巷良子さんが立候補し翌十八日会長候補谷村和男君副会長候補阿部三郎君を最後と挙管理委員会は〆切期日を翌十八日に延期する事を発表したが十七

大阪 修学旅行終る 東京

雨の十國峠・見えぬ富士
印象に殘る白堊の殿堂
委員の盡力に感謝

本年度初より三年生生徒の内で種々噂され懸念されていた修学旅行は、五月上旬結成された修学旅行準備委員会の熱ある努力が実を結び、交通公社の方の御尽力も得て、昨年の様な問題も無く成功裡に九月一二日、東京方面四泊五日の旅程を終えた。尚行程は熱海から箱根を経て強羅で一泊、江の島、長谷、鎌倉を辿って東京に入り翌日午前中バスにて都内遊覧、午後は自由行動。

十月行事予定

十四日（日）	体育祭
十五日（月）	代休
十七日（水）	文化祭
十八日（木）	文化祭
二十日（月）	午前中授業午後大清掃
二十九日（月）	中間考査
三十日（火）	中間考査
三十一日（水）	代休
十月一日（木）	中間考査
二日（金）	中間考査

五十五日午後五時過ぎ我々は京都発の修学旅行臨時列車に乗換えるべく倉皇にて大阪を後にした。然し七時二十四分京都迄の見送りの人々に別れて始めて旅行の気分を味った。特別列車の為五輌に分乗発んど座席を得ることが出来た。発車後十五分程経た頃車内は煙に包まれ暗闇と化していた。トンネルを通抜けると夕食をし、寒子を口に雑談にふける者、種々のゲームに興組む者等修学旅行ならではの態。落着いて眠る間もなく午前四時前薄暗い熱海の街に着いた。旅館で先ず朝風呂を浴び、朝食を済して金色夜叉で有名な熱海の海岸を散歩、お宮の松を見、波の音を聞いていると何か古めかしい九車のバスに分乗して湯の町熱海を後に急な勾配を箱根へと。雨の為際外の景色も全く霞み案内嬢も「雨が降って居りませんでしたらこの石に富士が見え…」と言う始末、退屈さと睡眠不足とで居眠りする者も居る。十国峠で下車観したが強い雨風に身震いする寒さ、それでもスケッチする者、カメラを向ける者等々。元箱根で関所の遺物であるヤリ、カブト、文書絵巻を拝観、三隻の船に分乗して青の湖を渡る。海面上七三米の火口原湖、水深四十数米と云われる濃青色の湖を名波を立て快速力で進む、湖岸より再びバスで雨の為予定の箱根山中傘絵対一の地たる大湯谷へ廻らず一時間余も早く強羅に到着、大部分の者は休む間もなく早速外出後は早く温泉に入って床に就き新たな旅行の気分を味つた。一夜が明けると雨も止み、登山電車で小田原へ、小田急に乗換えて江の島への車中から頂は雪で真白な富士の気高い姿を眺めた。江の島は大変賑かで、六百米の猿天橋を渡ると土産物屋が軒を連ね、その奥に江の島神社、平和塔がある、七里ガ浜、稲村ガ崎等歴史の一頁を思出しつつ長谷の鎌倉へ、此処で中食をし大仏を背景に写真を撮る。鎌倉で八幡宮を参拝、午後四時愈々東京へ向った。夕暮の東京駅に行き並び立つ大ビルディングに眼を見張る。夕闇迫る都内をバスで東大近くの三旅館に乗入れる。昨年の例等から東京の旅館の待遇が悪いと聞いていたが、案に相違して部屋、食事等大変よく拍子抜けの態。夜は三時間半の自由行動で、グループ毎各々思い思いの方面に夜の東京見物に外出した。銀座の夜景は明るく賑やかで、外人も多い。その夜は二べり込む。此の客車にも「此処は満ている。汽車が停車するや前の入口からも後の入口からも黒い学生服の人影が見事に飛びおりたちまち売子の廻りを取りかこむ。サイダーが売れる。ラムネが売れる、コーヒが売れる。しかし不思議な事にパンのような固形食物は誰も買わない。皆車中食べつめで喉がかわいているのであろう。

「修学旅行の生徒が乗っていればよく売れますよ。売り上げの半頭はやはりその土地の名産、土産物ですね。その売れる品物で行きか帰りかはすぐ解ります。行く時は食物が大部分、帰りは土産物に飲み物ですね。」とは駅の売り子の言葉、客車は急行とは比べ物にならない。急行の三分の二位の明るさである。一歩車内に入ると頭を真直にしているのは一人も居ない。上を向いたり、下を向いたり。横になったり、斜めになったり、実に見事な配列で、約半分は目を開いていたがその寝方も百人百様、一人ですっぽ一つをしめて横になっているのもあれば全く通路に落ちそうなのもある。そ

鎌倉露座の大佛

物に出発、先ず最初に皇居前で下車、我国の象徴たる天皇の皇居を拝し、写真でよく拝観する二重橋を目の辺りに眺め、G・H・Qを過ぎて国会議事堂へ、世界各国の文化の粋を集めた白堊の殿堂、その内部に入り参議院の議堂で説明を聞き政治に対する認識を新たにし、明治神宮、旧赤坂離宮の国会図書館、靖国神社、中央気象台、中央市場を巡って東京駅へ。午後の自由行動で交通の頻繁な都内を詳細に巡覧、記者の感じた東京の〝姿〟は、ビルディングの多いことは周知の如く、交通の頻繁さは街を歩けば直ぐ分る。外国の高級車の多いこともその一つ、到る所に政治、文化の建物、設備があり我国の中心部たる感を受ける。東京の高校生は質素、勤勉で服装も大阪の市内で見る様な派手な姿は無く、言葉が非常に美しい。

その夜七時十五分臨時列車で、多くの先輩その他の方々に見送られ東京を発ち帰途に着いた。翌朝二時前名古屋で漸く眠ろうとした我々は小笠先生、沢田記者の出迎えに殆んど二睡もせず六時過ぎ大阪駅に帰り着いた。【S記者】

口に紙筒 〝高鼾〟
下り列車の寝込みを襲う

修學旅行

旅程の一日を雨に降られたとはいえとにかく楽しい思い出をのこした修学旅行は無事終った。記者は去る二十九日未明旅行の疲れで眠りこけている生徒の寝込みを襲い、その寝顔を拝見せんものと特別団体列車を名古屋に待った。（沢田記）

「何処かな」と言うように寝ボケまなこに仕立られた列車が名古屋駅に外出した。銀座の夜景は明るく賑やかで、外人も多い。その夜は二べり込む。此の客車にも「此処は満ている。汽車が停車するや前の入口からも後の入口からも黒い学生服の人影が見事に飛びおりたちまち売子の廻りを取りかこむ。サイダーが売れる。ラムネが売れる、コーヒが売れる。しかし不思議な事にパンのような固形食物は誰も買わない。皆車中食べつめで喉がかわいているのであろう。

「修学旅行の生徒が乗っていればよく売れますよ。売り上げの半頭はやはりその土地の名産、土産物ですね。その売れる品物で行きか帰りかはすぐ解ります。行く時は食物が大部分、帰りは土産物に飲み物ですね。」とは駅の売り子の言葉、客車は急行とは比べ物にならない。急行の三分の二位の明るさである。一歩車内に入ると頭を真直にしているのは一人も居ない。上を向いたり、下を向いたり。横になったり、斜めになったり、実に見事な配列で、約半分は目を開いていたがその寝方も百人百様、一人ですっぽ一つをしめて横になっているのもあれば全く通路に落ちそうなのもある。そ

大學通信
(4) 神戸大學の巻

本大学は神戸経済大学を中心に神戸工業専門学校、姫路高等学校、兵庫師範及兵庫青年師範学校が一丸となり、これを母胎としつつ、その人的、物的の諸施設を打って一大総合大学である。

本大学はその位置するところ、わ国の代表的国際港都であり六大都の一たる神戸であり、文化度高い阪神地方、肥沃な播州地方を背景とする。本大学はこの位置からこの点に鑑みその整備については必然的要請として社会各分野、特に真重厳正をとし、広く全国における優秀な指導者の育成をそのモットーとする。

本大学の擁する学部が経済、経営、法学理、工学、教育の六学部に及び、広般な学問分野を抱擁するこ

本大学は神戸経済大学を中心に神戸工業専門学校、姫路高等学校、兵庫師範及兵庫青年師範学校が一丸となり、これを母胎としつつ、その人的、物的の諸施設を打って一大総合大学である。

本大学はその位置するところ、わ国の代表的国際港都であり六大都の一たる神戸であり、文化度高い阪神地方、肥沃な播州地方を背景とする。本大学はこの位置からこの点に鑑みその整備については必然的要請として社会各分野、特に真重厳正をとし、広く全国における優秀な指導者の育成をそのモットーとする。

本大学の擁する学部が経済、経営、法学理、工学、教育の六学部に及び、広般な学問分野を抱擁するこ

今を学問に教育を教へ旧制官立大学の軍級の大学としての流れの高さを自負している。なお経済経営研究機関としては大正八年設立界並に殷

眼下、

病床の芸術
谷先生訪問

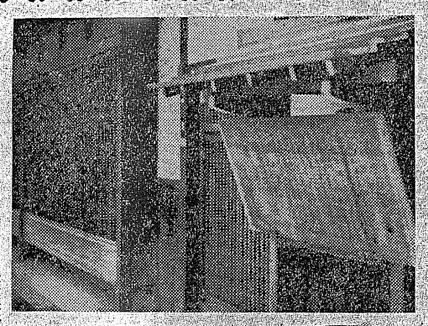
長雨の六月、日照りの八月と過しにくい数ケ月を阪大病院モデル・ルームに暮に御静養中であった谷先生は去る九月の末日めでたく御退院され現在御家庭の一室で病後の御身体を休めておられるが、去る日記者は玉出の先生のお家を訪問した。

（カットは谷先生作、切紙細工）

「やあ」と元気なお声で迎えて下さった先生のお顔は顔色もよくもうすっかり良くなられたと言う感じである。病院で寝ておられた時とは打って変り見違える程よく肥られて身体全体ふくふくしておられる。「よくこえましてね、二貫目以上重くなりましたよ、腹が出張って来てね、胸の骨なんかどこにも見えなくなってしまいましたよ。」と先生はうれしそう。早速病院におられた時の事など色々とお話しを聞く。「病院に居る時は寝たきりで何もする事が出来なくて時間的にきちきちしていましたが家に帰って来ると色々な誘惑が多くていけません。第一本が近くにあるので少し我慢しようと思ってもつい読み過ぎて疲れてしまうんです。そのかわり病院では退屈で

ね、仕方なくこんなのをして遊んでいたのですよ」と本の間から取り出してみられたのはユーモアたっぷりな切り紙細工、神興をかついでいる所や、何見ておどっている所、輪になって遊んでいる所、はたまたお化けの図など全て思わず微笑をもよおさずにはおれないものばかり。紙と鋏だけでこのように面白いのが出来るのだなあ、まさに病床の芸術とも言うものであろう。「これだったら寝たままで手を動かしてやり出来るんですから疲れませんし、寝ている間に相当うまくなりましたよ。楽しみが無ければね、病院に居た時は急きわに来ますまいておいてね、そうすればよく雀が遊びに来ましたよ。四匹でくるんですがね、明日でしょうね、可

今も殘る學の志
近くに聳えるビル


『緒方洪庵塾』

○……かとことに松はたつれど梅のはなさかぬかぎりは春としもない―蘭学の大家として知られている緒方洪庵先生でもこのような和歌をよまれている。蘭学と和歌……面白い組合せであるが、ここに洪庵先生の人間的な温かさがほのかに匂って来る。

○……先生がこの大阪の過書町（くわしまち・現北区三丁目）に「適々塾」をかまえられたのは天保十四年（一五〇三）の事。先生が江戸での修業から二年間の長崎遊学を終えられて大阪へ定住されるようになったのは天保九年、先生歳二十九歳の時、瓦町に居て医療を開業しながら過書町に移られる迄ここで蘭学を授けておられたと言う。その門生は実に三千人といわれる。橋本左内、大村益次郎、福沢諭吉等の俊才国士がその門より輩出した事は先生の大きな功績と言えるだろう。

○……「肝臓の辞書といえるのは大阪一の愉快な学者」（長与専斉の自叙伝「松香私志」より）我々学生は辞書を手に持ちて勉学出来る事に幸福を感じ、感謝を送らねばならない。

○……「行く河の流れはたえずして」と方丈記にあるようにこの世は次々と流れて行く、先生が下駄を鳴して歩かれたであろう道はアスファルトに変りハイ・ビルがどっこいっと鳴る。塾生が天下を論じたであろう道端には鉄筋のビルディングが立ち並んでいる。だが府立図書館・GIE図書館がこの近くにあって青年が読書にふけっているのも何か先生と縁があるのであろうか、万物は流転すと言うしかしこの塾が今もあって阪大の集会所となり、若き学徒が坐っていた部屋には角帽をきた青が辞書を手にして立っている。学の志、それだけ変っていないと言えよう。

○……二十五年間幾多の若き有能の士を送り出した先輩先生は文久二年（一八六二）幕府に召されてとうとう定住の地と思った大阪を離れなければならなくなった。「よるべとおもひしものをなにはがたあしのかりねとなりにけるかな」この一句を残して先生は塾生に見送られつつ、江戸へとたって行った。

（沢田）

緒方洪庵　文化七年備中足守に生れ若年父に従い大阪に来て蘭医の法を学び江戸・長崎に遊んで勉学、蘭方医・蘭学の大家となり、来阪して医を開き適々塾を作る。

世に出る住吉大社〝神代記〟
元本校教官　田中先生

今秋の住吉大社千七百四十年祭を機縁に御神体に準ずる〝秘記〟とされる〝神代記〟が神秘のヴェールをぬぎすて、近く写真版で学界に紹介されることになった。（九月二十三日付夕刊朝日）

これはかつて本校の国史科教官として自治会顧問を始め、各方面に活躍しておられた、田中卓先生の御研究によるもので、同先生は現在大阪府立社会事業大学の講師として御勤務中であるが、昨年七月同神社を訪れ、その原本を見ることを許され真実であることを知り、本格的な破究にとりかかられた。

一方、同神社と住吉文庫講の間で本年五月写真版刊行の計画もたてられた。先生は恩師である元東大教授平泉澄博士の御援助を受けられて原本を頼りに実證的に御研究の結果、このほど神代記の体裁、内容、文学の上か